検査方法や精密検査について　-受診の前にお読みください -

「要精密検査」と判定された方は、必ず精密検査を受けましょう。

精密検査は保険診療となり、通常の健康保険診療の診察・検査費用がかかります。

胃がん検診

○ 胃がんは、５０歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
○ 検診は２年に１度定期的に受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

● **胃のX線検査**
発泡剤（胃をふくらませる薬）とバリウム（造影剤）を飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。

● **胃内視鏡検査**
口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。

・ 検査当日は朝食が食べられません。
・ 常用薬、アレルギーがある場合は受診する医療機関にご相談ください。
・ 胃のX線検査ではバリウムで便秘になったり、腸内で詰まって腸閉塞を起こすことがあります。また過去にこの検査で問題があった方、手術を受けて１年以内の方、水分制限を受けている方は、受診する医療機関にご相談ください。
・ 胃内視鏡検査では胃の動きをおさえる注射や、のどの麻酔を行う場合があります。

● **精密検査は胃内視鏡検査**
胃のX線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で疑わしい部位が見つかれば、生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合もあります。
・ 検診で胃内視鏡検査を受けた場合、精密検査は、検診時に同時に行う生検や、胃内視鏡検査の再検査となります。

肺がん（結核）検診

○ 肺がんは、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
○ 検診は毎年定期的に受けてください。ただし、血痰、長引くせき、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

● **肺のX線検査**
胸のX線検査を行います。全体を写すため、大きく息を吸い込んでしばらく止めて撮影します。
・ 肺のX線撮影の放射線による健康被害はほとんどありません。

● **痰の検査**
対象者は５０歳以上、喫煙指数が６００以上の人です。３日間起床時に痰を取り、専用の容器に入れて提出します。痰に含まれる細胞や成分を測定してがん細胞の有無を調べます。
・ **喫煙指数の算出：１日の喫煙本数×喫煙年数＝喫煙指数**
加熱式タバコについては、「カートリッジの本数」を「喫煙本数」と読み替えます。

● **精密検査はCTもしくは気管支鏡検査など**
CT…X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し、くわしく調べます。
気管支鏡検査…気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

● **喫煙と肺**
たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約５倍、女性では約４倍肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果が出ています。たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人（受動喫煙者）の肺がんリスクも上げてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

● **８０歳以上の方へ**
・ ８０歳以上の方は、結核を発症する危険性がそのほかの年齢の方に比べて約５倍高くなります。
・ 結核を発症しても、初期段階ではほとんど症状（微熱、体のだるさ、長引く咳・痰等）が表れず、特に高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。
・ 結核の早期発見のため、定期的に健康診断を受けましょう。早期に発見すれば、本人のためだけでなく、大切な家族や友人等を結核から守ることができます。

大腸がん検診

○ 大腸がんは、罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
○ 検診は毎年定期的に受けてください。ただし、血便、腹痛、便の性状や回数が変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

● **便潜血検査**
便に混じった血液を検出する検査です。ご家庭で２日分の便を採取します。がんやポリープなどの大腸疾患があると大腸内に出血することがあり、その血液を検出することが目的です。（通常は微量で、目には見えません）

● **精密検査について**
全大腸内視鏡検査…下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープなどがないか調べます。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。大腸の奥まで観察することが困難な場合もあり、その場合は他の検査方法が用いられることがあります。
内視鏡検査と大腸のX線検査の併用法…大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。大腸のX線検査は、下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸をふくらませて大腸全体のX線写真を色々な方面から撮影する検査です。

子宮頸がん検診

○ 子宮頸がんは、女性のがんの中で罹患する人が多く、特に３０～４０歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。
○ 検診は２年に１度定期的に受けてください。ただし、月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

● **子宮頸部の細胞診**
子宮頸がん検診は子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具でこすって細胞を取って、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。
※月経（生理）中は避けて検査を受けてください。
問診により医師が必要と認めた方は、子宮体部の細胞をとる検査（子宮内膜細胞診）もあわせて行う場合があります。

● **精密検査はコルポスコープ検査（またはHPV検査）**
細胞診で異常が発見されたらコルポスコープ検査でくわしく調べます。コルポスコープ（腟拡大鏡）を使って子宮頸部をくわしく見ます。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。また細胞診の結果によってはHPV検査（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べます）を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。

乳がん検診

○ 乳がんは、女性のがんの中でも罹患する人が多くがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
○ 検診は２年に１度定期的に受けてください。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

● **マンモグラフィ**
マンモグラフィは小さいしこりや石灰化を見つけることができます。乳房を片方づつプラスチックの板ではさんで撮影します。乳房が圧迫されるため痛みを感じることもありますが、圧迫時間は数十秒ほどです。また放射線による健康被害はほとんどありません。

● **精密検査について**
マンモグラフィ追加検査…疑わしい部位を多方面から撮影します。
乳房の超音波検査…超音波で、疑わしい部位をくわしく観察します。
細胞診、組織診…疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。

（出典：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん検診受診者への説明資料」）

前立腺がん検診

○ 前立腺がんはもともと欧米男性に多く、日本男性にはごく少ないがんと知られていましたが、近年では患者数が増え続けています。

● **PSA検査**
血液検査を行います。前立腺に異常があると血中濃度が上がるという性質を持つため、その数値を調べることでがんの可能性を調べることができます。

骨粗しょう症検診

○ 骨粗しょう症は、長年の生活習慣などにより骨がスカスカになって骨折しやすくなる病気です。閉経期以降の女性に多く見られます。

● **骨量測定**
骨密度を測定します。骨密度は、骨の強さを判定するための代表的な指標です。
DXA（デキサ）法…背骨や太もものつけ根、前腕などの骨密度をX線で測定します。

肝炎ウイルス検診

○ 肝炎とは、肝臓の細胞に炎症が起こり、肝細胞が壊れていく病気です。
その原因として、わが国ではウイルス性が８割を占め、
中でもB型肝炎ウイルスあるいはC型肝炎ウイルスの
感染によるものが多くなっています。

● **血液検査**
肝炎ウイルスに感染しているかどうか血液検査で判断します。